

# 「問い」が生まれる授業のポイント（国語）

－児童生徒が「問い」をもち、言語能力を発揮する「単元づくり」を－

国語科は、情報、教材等の内容理解にとどまらず、その内容を表現している言葉の使い方や言葉そのものを学ぶ教科です。そのため、単元や題材のまとまりを設定し、指導内容のつながりを意識しながら重点化を図り、効果的に学習を展開することが必要です。教師に求められているのは単元をデザインする力です。日常生活や社会生活との関連を重視した課題等を言語活動として位置付けるなど、児童生徒が「問い」をもち、その解決の過程で思いや考えを広げ深めることができる単元を構成しましょう。また、児童生徒が身に付けた言語能力を十分に発揮できる授業を計画・実践しましょう。言語能力は使うことで育まれ、発揮することでよさが実感できるとともに学習意欲も高めます。

## 1 「問い」をもたせるために単元をデザインする（例 読むこと）

学習過程	「問い」をもち	「問い」を解決する・深める				新たな「問い」へ
	学習目的の理解・設定（見通し）	構造と内容の把握	精査・解釈	考えの形成	共有	自分の学習に対する考察（振り返り）

「認識から思考へ」「思考から表現へ」言語能力を発揮する

### ◎「言葉による見方・考え方を働かせる」とは？

学習の中で、対象と言葉、言葉と言葉との関係を、言葉の意味、働き、使い方等に注目して捉えたり問い直したりして、言葉への自覚を高めることであると考えられる。

文部科学省「小学校学習指導要領解説国語編」「中学校学習指導要領解説国語編」第2章国語科の目標及び内容より

## 2 1 単位時間の授業をデザインする（例）

導入	課題の提示	子供の「問い」を引き出し、取り組むべき必然性のある課題を設定する ○好きな本を紹介するなど子供が取り組みたくなる課題 ○日常生活や社会生活と関連した課題 ○古典や言葉そのものに着目した課題
	めあて	「問い」を自分事として捉え、見通しをもたせる ○生き物について分かりやすく伝えるために書き方を学ぼう ○意見文を書くために、記事を比較して読もう
展開	考えの形成	「問い」に対する自分の考えをもたせる ○昔の人と現代人の考え方の特徴を資料で調べる ○どのような種類の言葉があるか調べる
	共有	「問い」を生かした交流活動を設定する ○様々な意見にふれ、考えを深める交流活動 ○共通点・相違点はないか分析する交流活動 ○合意形成のための交流活動
終末	まとめ	「問い」への考えを整理させる ○友達の考えを取り入れる ○自分のことばで書く
	振り返り	学習を振り返り、新たな「問い」につなげる ○自己評価 ○相互評価 ○次時の見通し

次の学習場面で、身に付けた言語能力を積極的に発揮させる家庭学習等の設定

○読書 ○ミニ作文 ○漢字習得 ○辞書による語句調べ ○音読 ○資料・新聞の活用 ○友達、家族との会話等

# 国語科単元・授業の流れ(例)

— 言葉による見方・考え方を働かせるために —  
 ★単元の「まとまり」と指導事項の「つながり」、教材の「まとまり」と一単位時間の「つながり」を意識しましょう  
 ★思考をつなぐ「書く活動」「話す活動」等、アウトプットする場面を位置付けましょう

## 単元の課題（ゴール）の提示

- ◎ 子供にとって解決する必要性のある「単元の課題」の設定
- ◇ 子供が取り組みたくなる単元の課題
  - 「話したい・聞きたい・書きたい・読みたい」気持ちが高まるような必要性のある課題設定
- ◇ 既習事項を生かした単元の課題 → 既習内容を振り返り、実生活や他教科と関連付けるような課題設定
- ◇ 言語活動を通して身につく単元の課題（「育成をめざす資質・能力」に適した言語活動の設定）
  - 児童生徒の実態をふまえた課題設定（発問、手立て、板書・ノート計画、評価計画等）

### 単元の課題

- ・単元のゴールまで見通せること
- ・既習内容を生かせること
- ・子供の実態に即した表現であること

アウトプットする場面  
「書く活動」を設定する(例)

### 考えの形成

思考を広げる発問

— 自分の考えを持たせるために —

- 既習内容を想起させ、課題解決させるための視点を確認させる
- 相手意識、目的意識を持たせる
- 解決までの目安を示す（時間、文字数など）

#### ポイント1

- ・正確に速く丁寧に
- ・自分の考えを自分の言葉で書く
- ・既習漢字を使う
- ・「手元に辞書」等、積極的な声かけと活用

習得

活用

解決

### 共有

思考を深める発問

— 子供が思考する交流活動 —

- 多様な意見にふれる
- 共通点・相違点はないか分析させる
- 新しいものの見方、考え方へ向かう交流

#### ポイント2

- ・友だちの考えを聴く
- ・「発表」にとどまらず「問い返し」「質問」等の「対話」を行う
- ・サイドラインをひいたり、メモをとる
- ・グループの考えを学級全体で共有

### 単元のまとめ

授業においても「まとめ」や「振り返り」の時間を十分確保する

- 子供の言葉（わかったこと、解決したこと、本時のキーワード）を使ってまとめ、発表させたりする
- 次時の課題につながるように書いてまとめたりする

### 単元の振り返り

- ◎ 自己評価（達成感、課題意識）
- ◎ つまづきへのフィードバック
- ◎ 年間指導計画の位置付け

授業と  
つなぐ

- 次時の課題解決に向かわせる
- ミニ作文 ○ 漢字習得 ○ 語句調べ
  - 読書（関連図書を読む） ○ 音読
  - 資料・新聞 ○ 友達、家庭との会話

子供が主体的に考え、話し、書くサイクルの定着



学習評価を適切に位置付ける